

健康だより

結核は過去の病気 でしょうか？



木漏れ日がまぶしい季節ですが、いかがお過ごしですか。今回は、結核についてのお話です。

結核は「過去の病気」と思われがちですが、全国で毎年約 32,000 人が結核患者として新たに登録されており、わが国最大の感染症です。

* 結核の感染と発病の違い

感染・・・結核菌の侵入に対して、体の免疫システムが働くようになった状態
発病・・・感染して、咳・たん・だるさ・発熱などの症状が出た状態

* 結核の初期症状

- 2 週間以上続く咳
- たんがでる
- 長引く倦怠感（体がだるく、活力が出ない）
- 長引く微熱
- 胸痛

* 高齢者の結核が増加中！！

人口の高齢化に伴い、結核患者の高齢者の割合が増加傾向にあります。若いころに結核が流行していた世代は、発病したことはなくても、結核に感染している方が多く、体力・抵抗力が弱まったときに発病する傾向にあります。

* 若い世代も要注意！！

学生などの若い世代は、結核菌に感染したことがないため、菌を吸い込むと感染しやすく、比較的早い時期に発病する危険があります。

* 結核の感染経路

結核患者の咳やくしゃみなどから結核菌が飛び散り、それを吸い込むことにより感染します。これを空気感染と呼びます。

* 感染したら必ず発病するのか？

結核に感染しても必ず発病するとは限りません。発病の確率は 10 人に 1 人程度です。

多くの場合は、体の抵抗力で発病が抑えられるので、感染したことに気づかない場合があります。

* 発病したら必ず、人にうつしてしまうのか？

発病してもたんの中に結核菌を出していない軽症の場合は、感染させる恐れはありません。

* 結核の治療

結核と診断された場合、程度により治療法は異なりますが、多くの場合は複数の薬を 6～9 カ月服用します。自覚症状がなくても、決められた分量と期間を守りましょう。

風邪のようで風邪でないのが結核です。昔は、恐ろしい病気と思われていましたが、現代医療で治すことができる病気です。気になる症状があれば、できる限り早期に受診しましょう。

本庁健康推進課 保健師 北寺美雪



「モラハラ」って？

〇〇ハラスメントと聞いて皆さんは何を思いますか。

セクハラ「セクシャル・ハラスメント」性的嫌がらせ」やパワハラ「パワー・ハラスメント」職場での地位を利用した嫌がらせ」などは聞いたことがあると思います。

最近ではアカハラ「アカデミック・ハラスメント」学校内での地位を利用した嫌がらせ」なども取り上げられるようになりました。いずれも相手の人格を無視・軽視する認めがたい行為です。

ある晴れた休日に、T 家では家族そろって外出の準備をしています。お母さんは朝から家族の朝食作りや子どもの世話に忙しく、お父さんは、車を洗ったり自分の身支度をしたりしています。朝食をすませ支度を終えたお父さんは、子どもたちを車に乗せ、自分もさっさと運転席に乗り込み、エンジンをかけはじめました。お母さんは、夫をイライラさせてはいけません。朝食もそこそこに、あせる気持ちで家中の鍵をかけて回ります。

しかしお父さんは待ちきれず、大きく 2、3 回クラクションを鳴らしています。せかされたお母さんは、あわてて助手席に乗り込みましたが、運転席のお父さんは子どもたちに

明日に向けて

～差別をなくしていくために～

聞こえるように大きな声で：「まったく、いつものろまだな。グズならグズなりに、何で昨日のうちから準備しておかないんだ！子どもたちも呆れているぞ！」

モラハラ（モラル・ハラスメント）とは、言葉や態度で精神的に追いつめる嫌がらせのことです。外から見たら仲の良い夫婦が、実は家の中では傷つけてあげることがあります。でも、自分が悪いのだから人に言ったら私が悪いと非難されてしまう。そんなジレンマでより苦しい状況へと自らを陥れてしまうのです。

家庭だけでなく職場や学校でもモラハラは起こりえます。あなたの周りでもモラハラと思われる言動はありませんか？

何年か前までは数々のハラスメントという言葉は使われていませんでしたが、今は、ハラスメントが認知されてきて、加害者・被害者双方が言葉として認識し、徐々ではあります。が、注意しあえるようになってきています。

被害者が泣き寝入りせず「あつ、〇〇さんそれって〇〇ハラですよ」と気軽に言葉にして注意できる社会は大いに歓迎です。

（伊賀支所人権同和課）



サミュエル・アネスリーの

世界見聞録 - Part 3 -



夏が近づくにつれてだんだん気温が高くなって、もうすぐ海開きの時期になりますね。ああ、海での遊泳は楽しみです!水泳が大好きな私にとっては、毎年とても楽しみにしていることです。寒い冬には室内プールでしか泳げませんが、「夏になったら海へ行こう!」という話を友達とよくします。でも、今年は珍しく初めて海で泳いだのは4月の中旬でした。その時は八重山列島の石垣島にいたからです。天候が本土より暖かい沖縄県では、4月でもシュノーケリングなどが楽しめます。本当に綺麗でした!しかもあそこにいた時に初めて、地域、国、文化によって人々の海に対する関係や態度がそれぞれだと解りました。

私は海が大好きです。地元のアイランドでは天候が悪く、海は普段は荒涼とした風景ですが、短い夏のうちには大勢の人達が海岸に行って、そのすぐ終わってしまう温暖な天気をいっぱい楽しめます。子どもの時は毎年海岸へ両親に連れて行ってもらいましたので、今でも海へ行くとその幼い頃を思い出します。ただ、夏だからといって水が温かかったわけではありません!正直に言えば、水から出ると体が震えるぐらい冷たいですが、「せっかく夏だから海で泳がないとね〜」とたくさんの方が思うから入ります。

いうまでもなく、沖縄県で出会った海はアイランドの海と全然違いました。灰色の荒々しい波のかわりに、暖かくてきれいな青緑色の海やサンゴの浜に魅了されまし

た。まさに天国の光景でした!ここに住んだら毎日海で泳ぎたいと思いましたが、地元の人達と話したら、水泳をする人は誰ひとりといませんでした。彼らは海から食べ物ももらう、海で仕事をする、海を越えてほかの島々へ行くのですが、海を楽しむ発想があまりないようです。

日本では魚、貝類などの海で捕るものはよく食べられています。アイランドのほうは同じ島国であっても、海産物より肉類の料理がほとんどですから、食べもののために海に頼る発想は別にアイランド人はしません。大笑いの話でしたが、石垣島でシュノーケリングを日本人の友達とした時に、その友達がある魚を指さして、「おいしい! その魚はおいしいよ!」と言いましたが、私が同じ魚を見て思ったのは「きれいだな」ということでした。考え方が違いますね!

北ヨーロッパに位置するアイスランドという国は、毎年6月の第1日曜日に「船乗りの日」という、年間の中でも大事な祝日があります。その日に、数多くの人達がパレードに参加し、漁師同士の大会を見物するほかに、首都レイキャビクの港がたくさんの、古い価値のある船に飾られて、賑やかな一日だそうです。アイスランドにとって海が非常に大きな役割を果たすから、この海を祝う祝日は法定休日となっています。

色々な国の昔話や伝説に海のことを書いてあります。歴史や言語などが違って、人間の海に対する恐怖や驚嘆の念は一緒だと思うから、読んでみたら面白いですよ!



3月末、市民病院のCT装置が旧装置の陳旧化のため新機種に更新されました。64列マルチスライスCTと呼ばれる最新の装置です。

以前の装置では、1枚/秒の速度でおよそ10mm間隔の断面像を撮影していましたが、新しい装置では、64枚/0.5秒(128枚/秒)の速度で0.5mm間隔の断面を撮ることが出来ます。この10年の技術革新の大きさに目を見張る思いです。これによって、CT検査は「輪切りの断面を見る」検査から、「自由な断面を見る、立体で見る」検査へと大きく変貌しました。新しい装置でも、基本的には従



**CT装置が
新しくなりました**

聴診器 市民病院だより



来と同じような輪切りの断面写真を作成しますが、放射線科読影室では、画像診断医で、ある私が専用のコンピュータを用いて病変をあらゆる方向から観察し、必要に応じて輪切り以外の断面写真や立体写真(3D画像)を作成して病気の診断を行っています。

このように、新しい装置では診断精度がより高くなったのはいうまでもありませんが、検査を受けていただく患者さんの身体的な負担が軽くなった点も大きな特徴です。通常、体部の撮影では、呼吸運動による画像のブレを防ぐため息を止めて撮影を行います。息を止める間が非常に短くなるため、息を止めていただく時間や回数が従来に比べてかなり少なくなりました。特にお年寄りや呼吸状態の悪い方、交通事故などで状態の良くない方でも、少ない負担で鮮明な画像を得ることが出来ます。

我々放射線科は、この新しい装置を存分に、そして安全に活用することを通して、市民の皆さんの健康を守るようにこれからも努めます。

放射線科部長 田中直